

名古屋大学短期交換留学受入れプログラム

(Nagoya University Program for Academic Exchange - NUPACE)

2014-2018年度報告

国際教育交流センター・副センター長 教育交流部門 部門長

(兼担) 工学研究科 国際交流室

野 水 勉

本年2018（平成30）年2月で23年を経過した名古屋大学交換留学受入プログラム（NUPACE）の2018（平成30）年度は、4月に73名、9月下旬に136名を受け入れ、年間受入れ総数が209名に及び、前年度の受入れ総数207名をさらに上回った。当初は年間40名受入れ規模で始められたが、当初規模の5倍に達したことになる。プログラム立ち上げから関与している当事者として大変感慨深く、全部局の協力と支援の賜物であり、関係者の方々に深く感謝の意を表したい。

2019（平成31）年度も、4月に73名を受入れ、9月は147名の受入れが見込まれるため、年間受入れ数は220名ほどとなり、昨年度をさらに10名ほど上回る見通しである。2013年度報告以降、本紀要に筆者から報告ができなかったため、5年間の交換留学受入プログラムの活動概要を以下に報告する。筆者は2020年度3月に定年退職となるため、発足以来のデータも一部紹介し、23年間のプログラムの成果を振り返りたい。

1. 交換留学生受入れの現状

図1-1に過去10年間のNUPACEプログラムへの応募者数、受入れ数、奨学金割当数、自費留学参加者数の推移を、そして図1-2にNUPACE発足以来の受入れ数と奨学金割当数の推移を示す。プログラム発足から10年間ほどの間に、40名規模から70～80名へ増加したが、2010（平成22）年度以降、留学生向け宿舍が大きく増強され、NUPACEの受入れ数の制限が緩和されたため、平均年10%の伸びで急速に増加し、2017年度に200名を越えて、18年度、19年度とさらに増加し続けている（現在、4月受入および9月受入の各時期において、協定大学1校あたり原則3名までを許可し、派遣学生実績の多い大学にはさらに条件を緩和し

ている）。NUPACEプログラムが発足した当時は、文部省「短期留学推進制度」（1995（平成7）年度発足）に基づき、（財）日本国際教育協会（AIEJ）を通じて奨学金の支援を受けていたが、2004年以降は同協会が日本育英会と統合されて設立された日本学生支援機構（JASSO）を通じて文部科学省補助金事業「海外留学支援制度」として、奨学金の支援を受けてきている。

この23年間に奨学金申請が不採択だったのは2016（平成28）年度のみ（同年7月に繰り上げによる追加採択が決まり、9月受入学生への奨学金割当ができた）で、この10年間も、毎年45～70%の学生が同制度の奨学金支援を受けている。当初の10年間は、90-100%の学生が奨学金を支給されたが、2004年以降は奨学金の100%割当を想定せず、奨学金を受給できない学生の自費による参加を積極的に受け入れた。これに合わせて、応募時に奨学金を受給できない場合の自費参加の可否を確認するようにしたところ、応募者の9割以上が自費参加の意志を表明してきている。自費参加の経費支弁の条件として、1学期滞在は50万円、1年滞在の場合は100万円の預貯金を確認して受け入れている。この10年間は、受入れの半数近くが自費であるが、奨学金を受給できれば余裕のある留学生活となるため、応募者の奨学金支給の期待は大きい。また、東南アジア・中央アジアの国々は、自費参加が難しい場合が多い。本学は、幸いにも、文科省／日本学生支援機構への奨学金申請がほぼ採択されているため、受入れ学生の40-60%が奨学金を受給している。

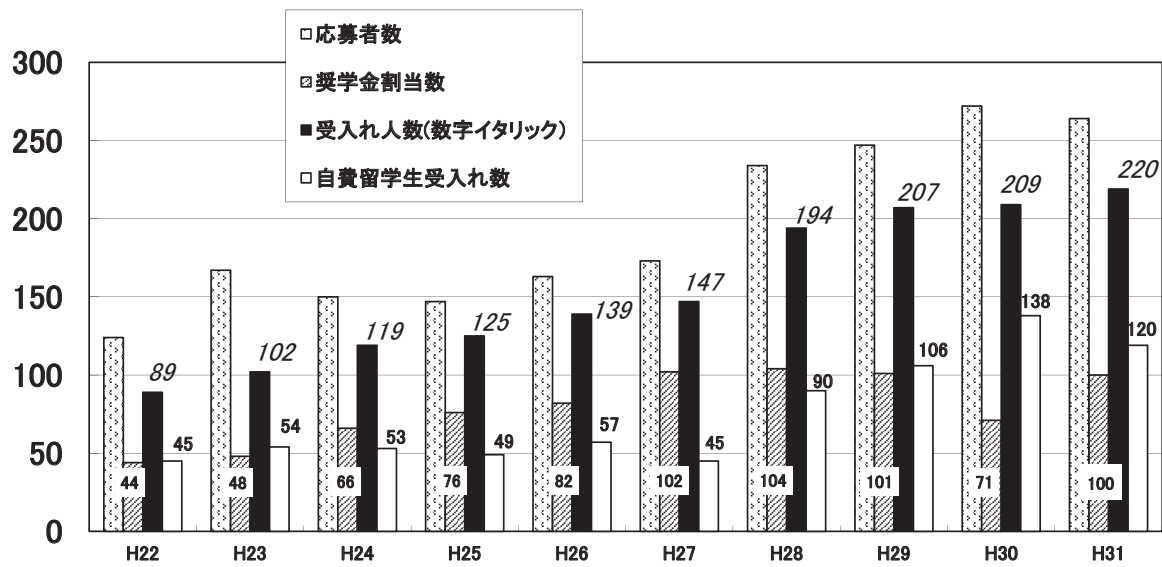


図1-1. 交換留学受入プログラム（NUPACE）への応募者数、奨学金割当数、受入れ人数、自費参加学生数の2010（平成22）～2019（平成31）年度の推移

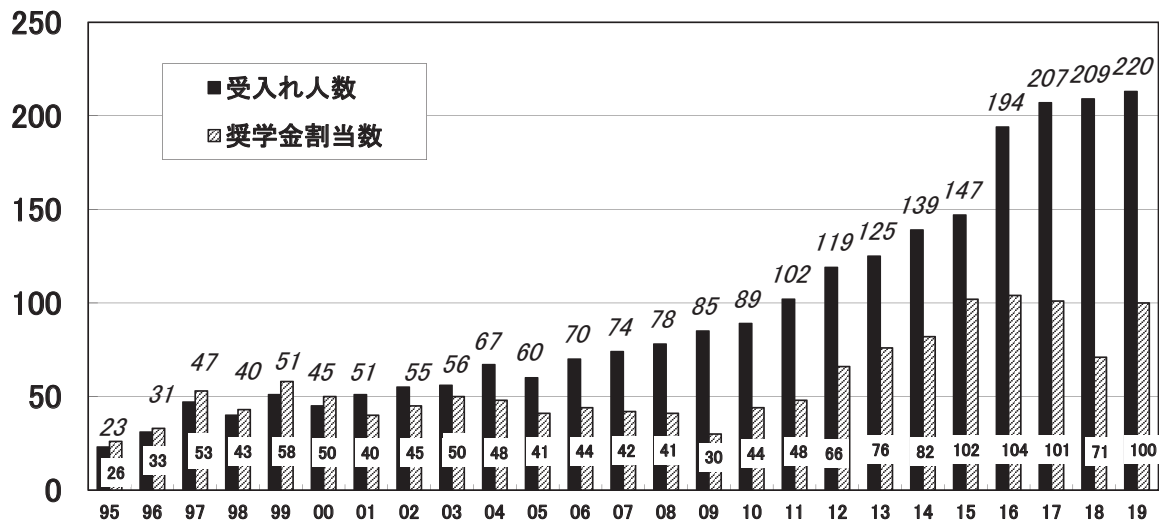


図1-2. 交換留学受入プログラム（NUPACE）への受入れ人数と奨学金割当数の1995（平成7）～2019（平成31）年度の推移

表1. 名古屋大学交換留学受入プログラム受入れ実績(2015年4月～2019年4月)(1/6)

受入れ時期	大学所在国	大学名	協定の種類	授業料不 徴収協定	学生数	自費参加**	学部別内訳															学生身分内訳			
							文	育	法	経	情文	理	医	工	農	国開	情報	多元	国言	環境	創薬	言セ	国七	学部生**2	大学院生**3
平成27年度 (2015年度) 第1期 (4月渡日)	中国	華東政法大学	部局(法)	有	2	1			2															2	
	〃	上海交通大学	全学協定	有	2	1																			2
	〃	同済大学	全学協定	有	1							1													1
	〃	東北大学	全学協定	有	3	2							2											3	
	〃	中山大学(嶺南大学)	部局(経)	有	1								1												1
	韓国	高麗大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	梨花女子大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	成均館大学	全学協定	有	2	1							1											2	
	〃	慶尚大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	慶熙大学	全学協定	有	3	2																		3	
	〃	忠南大学	部局(経)	有	2	1																		2	
	〃	韓国外国語大学	部局(国言)	有	1														1						1
	台湾	国立台湾大学	全学協定	有	2																			1	1
	〃	国立台湾交通大学	部局(工)	有	1									1										1	1
	インドネシア	ガジャマダ大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	スラバヤ大学	全学協定	有	1																			1	
	ベトナム	外国貿易大学	部局(経)	有	2	1																		2	
	トルコ	ビルケント大学	全学協定	有	3	1						2			1									3	
	米国	イリノイ大学アーバナシャンペーン校	全学協定	有	3	2								3										3	
	〃	ミネソタ大学	全学協定	有	4	2								2										4	
	〃	ミシガン大学	部局(工)	有	1									1										1	
	〃	シンシナティ大学	全学協定	有	1																			1	
	カナダ	モントリオール大学	全学協定	有	1																			1	
	英国	プリストル大学	全学協定	有	1							1												1	
	ドイツ	フライブルグ大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	ミュンヘン工科大学	全学協定	有	1																				1
	〃	アーヘン工科大学	全学協定	有	1																			1	
〃	ブラウンシュバイク工科大学	全学協定	有	3	1						2		1										3		
〃	ケムニッツ工科大学	全学協定	有	2	1																		2		
デンマーク	コペンハーゲン大学	全学協定	有	1									1										1		
ポーランド	グダニスク医科大学	部局(医)	有	1									1											1	
オーストラリア	オーストラリア国立大学	全学協定	有	2	1	1																	2		
〃	モナシュ大学	全学協定	有	2	1																		2		
〃	アデレード大学	全学協定	有	1																			1		
〃	西オーストラリア大学	全学協定	有	1										1									1		
小計					57	18	15	1	6	11	0	5	2	14	0	0	0	0	3	0	0	0	0	41	16
平成27年度 (2015年度) 第2期 (9月渡日)	中国	清華大学	全学協定	有	2	1	1	1	1															3	1
	〃	南京大学	全学協定	有	1		1	1																	
	〃	中国政法大学	全学協定	有	2	1																		1	
	〃	華東政法大学	全学協定	有	2	2																		2	2
	〃	同済大学	全学協定	有	1	1																			1
	〃	上海交通大学	全学協定	有	2																				
	〃	東北大学	全学協定	有	2	1																		3	1
	〃	中山大学(嶺南大学)	部局(経)	有	1																			1	
	〃	華中科技大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	瀋陽工業大学	部局(経)	有	2																			1	
	香港	香港中文大学	全学協定	有	1																			2	
	韓国	梨花女子大学	全学協定	有	2																			1	
	〃	漢陽大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	慶尚大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	忠南大学	部局(経)	有	1																			1	
	台湾	国立台湾大学	全学協定	有	3	2	1																	2	2
	〃	国立政治大学	全学協定	有	1																			1	
	タイ	チュラロンコン大学	全学協定	有	2	1	1																	2	1
	〃	カセサート大学	全学協定	有	2		1																	1	
	インドネシア	ガジャマダ大学	全学協定	有	1	1																		2	1
	〃	バンドン工科大学	全学協定	有	1																			1	
	ベトナム	外国貿易大学	部局(経)	有	1																			1	
	ウズベキスタン	世界経済貿易大学	部局(法)	有	2																			1	
	米国	ニューヨーク大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	ミネソタ大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	ノースカロライナ州立大学	全学協定	有	有		1																	1	
	〃	シンシナティ大学	全学協定	有	1	1																		2	1
	〃	ケンタッキー大学	全学協定	有	2		2																	1	
	〃	グリーン・マウンテン大学	部局(法)	有	2																			1	
	英国	プリストル大学	全学協定	有	1	1																		1	1
	〃	シェフィールド大学	全学協定	有	1																			1	
	〃	マンチェスター大学	部局(理)	有	1	1																		1	1
	〃	ウォリック大学	全学協定	有	有		1	1																3	1
	〃	ロンドン大学(SOAS)	全学協定	有	3		1																	1	
	フランス	ストラスブール大学	全学協定	有	3																			1	
	〃	グルノーブル大学	全学協定	有	3	2																		2	2
	〃	リヨン第3大学	全学協定	有	2	2																		2	2
	〃	パリ第7ディドロ大学	全学協定	有	1	1																		2	1
	〃	パリ・ヴァル・ドゥ・セヌ国立高等建築学校	部局(環)	有	1																			2	
	ドイツ	ミュンヘン工科大学	全学協定	有	2	2																		1	2
〃	フライブルグ大学	全学協定	有	3	1																		2	1	
〃	ブラウンシュバイク工科大学	全学協定	有	2																					
〃	デュイスブルク・エッセン大学	部局(法)	有	2	1																			1	
〃	アーヘン工科大学	全学協定	有	1	2																		3	2	
〃	ダルムシュタット工科大学	部局(工・環)	有	2																			2		
〃	マインツ大学	全学協定	有	2																			1		
ポーランド	ワルシャワ工科大学	全学協定	有	1																					

表1. 名古屋大学交換留学受入プログラム受入れ実績 (2015年4月～2019年4月) (2/6)

受入れ時期	大学所在国	大学名	協定の種類	授業料不 徴収協定	学生数	自費参加**	学部別内訳																	学生身分内訳		
							文	育	法	経	情文	理	医	工	農	国開	情報	多元	国言	環境	創薬	言セ	国七	学部生**	大学院生**	
平成28年度 (2016年度) 第1期 (4月渡日)	中国	北京大学	全学協定	有	1	1																			1	
	〃	中国政法大学	部局(法)	有	1	1																			1	
	〃	華東政法大学	部局(法)	有	1	1																			1	
	〃	浙江大学	全学協定	有	2	1																			1	1
	〃	同済大学	全学協定	有	3	2																			2	1
	〃	東北大	全学協定	有	4	3																			4	
	中国	中山大学(嶺南大学)	部局(経)	有	2	1																			2	
	香港	香港大学	全学協定	有	5	4																			5	
	韓国	高麗大学	全学協定	有	2	2																			1	1
	〃	梨花女子大学	全学協定	有	2	2																			2	
	〃	成均館大学	全学協定	有	1	1																			1	
	〃	慶尚大学	全学協定	有	2	2																			2	
	〃	慶熙大学	全学協定	有	3	3																			3	
	〃	延世大学	全学協定	有	1	1																			1	
	〃	ソウル市立大学	部局(法)	有	1	1																			1	
	台湾	国立政治大学	全学協定	有	1	1																				1
	トルコ	国立清華大学	全学協定	有	1																					1
	米国	ビルケント大学	全学協定	有	1																					
	〃	ニューヨーク大学	全学協定	有	1																					
	〃	ミネソタ大学	全学協定	有	1	1																				
	〃	セント・オラフ大学	全学協定	有	1	1																				
	〃	シンシナティ大学	全学協定	有	2	2																				
	〃	ノースカロライナ州立大学	全学協定	有	2	1																				
	〃	グリーン・マウンテン大学	部局(法)	有	1	1																				
	フランス	パリ・ヴァル・ドゥ・セーズ国立高等建築学校	部局(工・環)	有	2	1																				
	ドイツ	ミュンヘン工科大学	全学協定	有	1																					
〃	アーヘン工科大学	全学協定	有	1	1																					
〃	ブラウンシュバイク工科大学	全学協定	有	3	2																					
〃	ケムニッツ工科大学	全学協定	有	2	2																					
イタリア	ボローニャ大学	全学協定	有	2	2																					
デンマーク	コペンハーゲン大学	全学協定	有	1	1																					
ポーランド	ワルシャワ工科大学	全学協定	有	1																						
オーストラリア	アデレード大学	全学協定	有	2	2																					
〃	西オーストラリア大学	全学協定	有	2	2																					
小計					59	46	14	3	10	13	1	2	0	10	0	0	0	0	3	3	0	0	0	44	15	
平成28年度 (2016年度) 第1期 (4月渡日)	中国	北京大学	全学協定	有	2					2															2	
	〃	清華大学	全学協定	有	3	1																			2	
	〃	中国政法大学	部局(法)	有	1																				1	
	〃	同済大学	全学協定	有	3	1																			1	
	〃	上海交通大学	全学協定	有	3	1																			1	
	〃	東北大	全学協定	有	3	1																			2	
	〃	中山大学(嶺南大学)	部局(経)	有	1																				3	
	〃	華中科技大学	全学協定	有	5	4																			1	
	〃	吉林大学	全学協定	有	2																					
	〃	中国科学技術大学	全学協定	有	1	1																			1	
	〃	北京工業大学	部局(工)	有	2	1																			2	
	香港	香港中文大学	全学協定	有	3	1																			3	
	韓国	梨花女子大学	全学協定	有	2	1																			2	
	〃	高麗大学	全学協定	有	3	2																			3	
	〃	漢陽大学	全学協定	有	2	1																			2	
	〃	慶尚大学	全学協定	有	1																				1	
	台湾	成均館大学	全学協定	有	2	1																			2	
	〃	国立台湾大学	全学協定	有	3	1																			1	2
	〃	国立清華大学	全学協定	有	2																				2	
	〃	国立政治大学	全学協定	有	1																					
	〃	国立交通大学	部局(工)	有	2																					
	〃	国立中正大学	部局(育)	有	1																				1	
	モンゴル	モンゴル国立大学	全学協定	有	1																				1	
	〃	モンゴル科学技術大学	全学協定	有	1																				1	
	インドネシア	ガジャマダ大学	全学協定	有	2																				1	1
	〃	バンドン工科大学	全学協定	有	2	1																			2	
	ベトナム	外国貿易大学	部局(経)	有	2																				2	
	ウズベキスタン	世界経済貿易大学	部局(法)	有	2																				2	
	米国	ミネソタ大学	全学協定	有	1																				1	
	〃	ノースカロライナ州立大学	全学協定	有	6	4																			6	
	〃	イリノイ大学アーバナシャンペーン校	全学協定	有	1																				1	
	〃	南イリノイ大学	全学協定	有	2																				2	
	〃	フロリダ大学	全学協定	有	1																				1	
	〃	セントオラフ大学	全学協定	有	2																				2	
	カナダ	オタワ大学	全学協定	有	1																					1
	メキシコ	メキシコ自治大学	全学協定	有	3	2																			3	
	英国	ブリストル大学	全学協定	有	1																				1	
	〃	シェフィールド大学	全学協定	有	2																				2	
	〃	リーズ大学	全学協定	有	3																				3	
	〃	ウォーリック大学	全学協定	有	1	1																			1	
〃	ロンドン工科大学(SOAS)	全学協定	有	3	1																			3		
フランス	グルノーブル大学	全学協定	有	4	2																			2	2	
〃	リヨン第3大学	全学協定	有	1																				1	1	
〃	パリ第7ディドロ大学	全学協定	有	2	1																			2		
〃	パリ・ヴァル・ドゥ・セーズ国立高等建築学校	部局(工・環)	有	2	1																				2	
ドイツ	ミュンヘン工科大学	全学協定	有	4	1																					

表1. 名古屋大学交換留学受入プログラム受入れ実績 (2015年4月～2019年4月) (3/6)

[illegible]

表1. 名古屋大学交換留学受入プログラム受入れ実績 (2015年4月～2019年4月) (4/6)

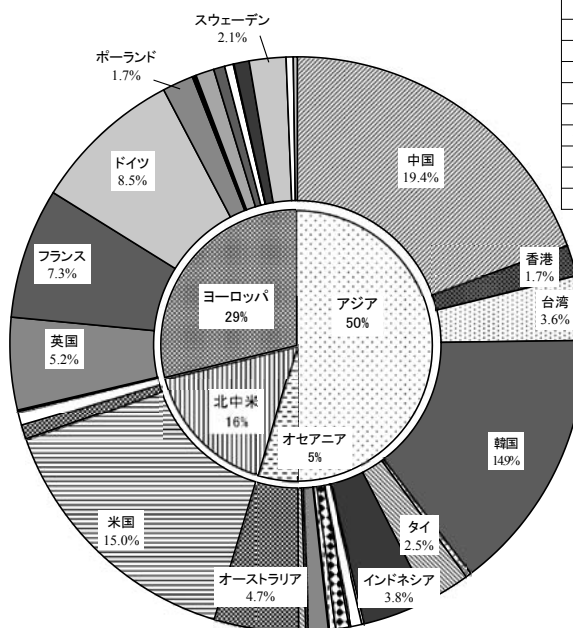
受入れ時期	大学所在国	大学名	協定の種類	授業料不 徴収協定	学生数	自費参加**	学部別内訳																	学生身分内訳			
							文	育	法	経	情文	理	医	工	農	国開	情科	多元	国言	環境	創薬	言セ	国七	学部生**	大学院生**		
平成29年度 (2017年度) 第2期 (9月渡日) (つづき)	米国	アイオワ州立大学	全学協定	有	2										2										2		
	〃	グリーン・マウンテン大学	部局 (法)	有	1			1																	1		
	カナダ	モントリオール大学	全学協定	有	2	1																			2		
	メキシコ	メキシコ自治大学	全学協定	有	2	2																			2		
	英国	プリストル大学	全学協定	有	2	1																			2		
	〃	マンチェスター大学	全学協定	有	有	1																			1		
	〃	シェフィールド大学	全学協定	有	有	1						1													1		
	〃	リーズ大学	全学協定	有	有	3	2																		1	3	
	〃	ウォーリック大学	全学協定	有	有	1											1								1		
	〃	ロンドン大学 (SOAS)	全学協定	有	有	2	1																		2		
	フランス	グルノーブル大学	全学協定	有	有	4	3								1										3	1	
	〃	ストラスブール大学	全学協定	有	有	2	1									1									2		
	〃	リヨン第3大学	全学協定	有	有	3	2																		2		
	〃	パリ第7デイドロ大学	全学協定	有	有	2	1																		2		
	〃	パリ・ヴァル・ドゥ・セズ国立高等建築学校	全学協定	有	有	2	1													2					2		
	ドイツ	ミュンヘン工科大学	全学協定	有	有	4	3							2											2	2	
	〃	フライブルグ大学	全学協定	有	有	4	3							1											3	1	
	〃	デュイスブルク・エッセン大学	部局 (育)	有	有	1																			1		
	〃	アーヘン工科大学	全学協定	有	有	4	3							1											4		
	〃	ダルムシュタット工科大学	部局 (工・環)	有	有	1														1					1		
	〃	ケムニッツ工科大学	全学協定	有	有	1										1									1		
	イタリア	ボローニャ大学	全学協定	有	有	1						1													1		
	スイス	ジュネーブ大学	全学協定	有	有	1																			1		
	オーストリア	ウィーン医科大学	部局 (医)	有	有	2	1							2											2		
	スウェーデン	ルンド大学	部局 (法)	有	有	2	2			2															2		
	〃	ウプサラ大学	全学協定	有	有	3	2								1					1	1				1	2	
	デンマーク	コペンハーゲン大学	全学協定	有	有	3	2		1	1															3		
ノルウェー	オスロ大学	全学協定	有	有	1							1												1			
アイスランド	アイスランド大学	全学協定	有	有	2	2																		2			
オーストラリア	オーストラリア国立大学	全学協定	有	有	1	1																		1			
〃	モナシ大学	全学協定	有	有	1						1													1			
〃	アデレード大学	全学協定	有	有	2	1							1											2			
〃	南オーストラリア大学	全学協定	有	有	2	1																		2			
〃	西オーストラリア大学	全学協定	有	有	2	1						1			1	0	0	0	7	1		2		2			
小計					129	68	34	3	17	14	11	13	3	17	7	0	0	0	0	7	1		2	94	35		
平成30年度 (2018年度) 第1期 (4月渡日)	中国	清華大学	全学協定	有	1											1									2	1	
	〃	華東政法大学	部局 (法)	有	有	2	1						2												2		
	〃	中山大学 (嶺南大学)	部局 (経)	有	有	2	1																		2		
	〃	同済大学	全学協定	有	有	3	2																		3		
	〃	上海交通大学	全学協定	有	有	1																			1		
	〃	東北大学	全学協定	有	有	1																			1		
	香港	香港大学	全学協定	有	有	1																			1		
	〃	香港城市大学	全学協定	有	有	3	2							1											3		
	韓国	ソウル国立大学	全学協定	有	有	1									2										1		
	〃	高麗大学	全学協定	有	有	3	2																		2	1	
	〃	成均館大学校	全学協定	有	有	2	1								2										2		
	〃	漢陽大学	全学協定	有	有	3	2							1											3		
	〃	慶尚大学	全学協定	有	有	2	2								1										2		
	〃	慶熙大学	全学協定	有	有	1																			1		
	〃	忠南大学	部局 (経)	有	有	1	1																		1		
	〃	延世大学校	全学協定	有	有	1	1																		1		
	台湾	国立中正大学	部局 (育)	有	有	1									1										1		
	インドネシア	ガジャマダ大学	全学協定	有	有	2	1																		2		
	ベトナム	外国貿易大学	部局 (経)	有	有	2	2							2											2		
	シンガポール	南洋理工大	全学協定	有	有	2	1								1										2		
	トルコ	ビルケント大学	全学協定	有	有	2	1									1									2		
	ウズベキスタン	世界経済貿易大学	部局 (法)	有	有	1																			1		
	米国	ミネソタ大学	全学協定	有	有	1																			1		
	〃	イリノイ大学アーバナシャンペーン校	全学協定	有	有	1	1																		1		
	〃	ノースカロライナ州立大学	全学協定	有	有	4	3								2								1		4		
	〃	アイオワ州立大学	全学協定	有	有	2	1										1								2		
	〃	セント・オラフ大学1	全学協定	有	有	1											1								1		
	〃	グリーン・マウンテン大学	部局 (法)	有	有	1																			1		
	メキシコ	メキシコ自治大学	全学協定	有	有	3	3										2								3		
	フランス	ストラスブール大学	全学協定	有	有	1	1																		1		
	〃	リヨン第3大学	全学協定	有	有	1	1																		1		
	ドイツ	フライブルグ大学	全学協定	有	有	1																			1		
	〃	アーヘン工科大学	全学協定	有	有	1																			1		
	〃	ブラウンシュバイク工科大学	全学協定	有	有	3	2																		3		
	〃	ケムニッツ工科大学	全学協定	有	有	1	1										1								1		
	〃	ミュンヘン工科大学	全学協定	有	有	1	1																		1		
	オーストリア	インスブルック大学	全学協定	有	有	1	1																		1		
	ポーランド	ワルシャワ工科大学	部局 (工)	有	有	1											1								1		
	デンマーク	オーフス大学	全学協定	有	有	3	3		2								1								2	1	
	〃	コペンハーゲン大学	全学協定	有	有	1																			1		
	ノルウェー	オスロ大学	全学協定	有	有	3	2						2	1												3	
	オーストラリア	モナシ大学	全学協定	有	有	1																	1		2		
	〃	アデレード大学	全学協定	有	有	2	1																2		1		
	〃	西オーストラリア大学																									

表1. 名古屋大学交換留学受入プログラム受入れ実績(2015年4月～2019年4月)(6/6)

受入れ時期	大学所在国	大学名	協定の種類	授業料不 徴収協定	学生数		学部別内訳																	学生身分内訳	
					自費参加*	文	育	法	経	情文	理	医	工	農	国開	情科	多元	国言	環境	創業	言セ	国七	学部生**	大学院生**	
	々	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	全学協定	有	1																				
	々	ミネソタ大学	全学協定	有	2	1								1										1	2
	々	ノースカロライナ州立大学	全学協定	有	1	1																	1	1	
	々	ケンタッキー大学	全学協定	有	1																			1	
	々	セントオラフ大学	全学協定	有	1	1																	1	1	
	カナダ	モントリオール大学	全学協定	有	1	1																	1	1	
	メキシコ	メキシコ国立自治大学	全学協定	有	3	3								2										3	
	ドイツ	ミュンヘン工科大学	全学協定	有	1	1																		1	
	々	アーヘン工科大学	全学協定	有	3	2																		2	
	々	ブラウンシュバイク工科大学	全学協定	有	3	2								1	2									1	
	々	ケムニッツ工科大学	全学協定	有	1									1										1	
	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	全学協定	有	1	1																		1	
	ノルウェー	オスロ大学	全学協定	有	1	1																		1	
	アイスランド	アイスランド大学	全学協定	有	1	1																		1	
	オーストラリア	オーストラリア国立大学	全学協定	有	1																			1	
	々	モナシュ大学	全学協定	有	2																			2	
	々	西オーストラリア大学	全学協定	有	2	2																		2	
小計					73	45	10	1	11	10	0	5	0	15	3	2	7	1	0	2	0	0	6	58	15

* 1: 自費参加 (JASSO 及びその他の奨学金受給者以外), * 2: 特別聴講学生 + 日本語研修生, * 3: 大学院特別聴講学生 + 特別研究学生

	人数	割合
カナダ	18	0.8%
メキシコ	17	0.7%
ブラジル	2	0.1%
ポーランド	39	1.9%
ベルギー	3	0.1%
オランダ	2	0.1%
オーストリア	23	1.0%
スイス	14	0.6%
イタリア	11	0.5%
スペイン	1	0.04%
デンマーク	19	0.9%
スウェーデン	46	2.1%
ロシア	4	0.2%
ノルウェー	9	0.4%
アイスランド	5	0.2%



	人数	割合
香港	39	1.7%
モンゴル	7	0.3%
シンガポール	3	0.1%
フィリピン	14	0.6%
インド	2	0.1%
ベトナム	17	0.8%
カンボジア	8	0.4%
ラオス	1	0.04%
ウズベキスタン	25	1.1%
カザフスタン	3	0.1%
トルコ	9	0.4%

図2 名古屋大学交換留学受入留学生の在籍大学所在国の内訳
(1996年2月～2019年4月, 2,238名)

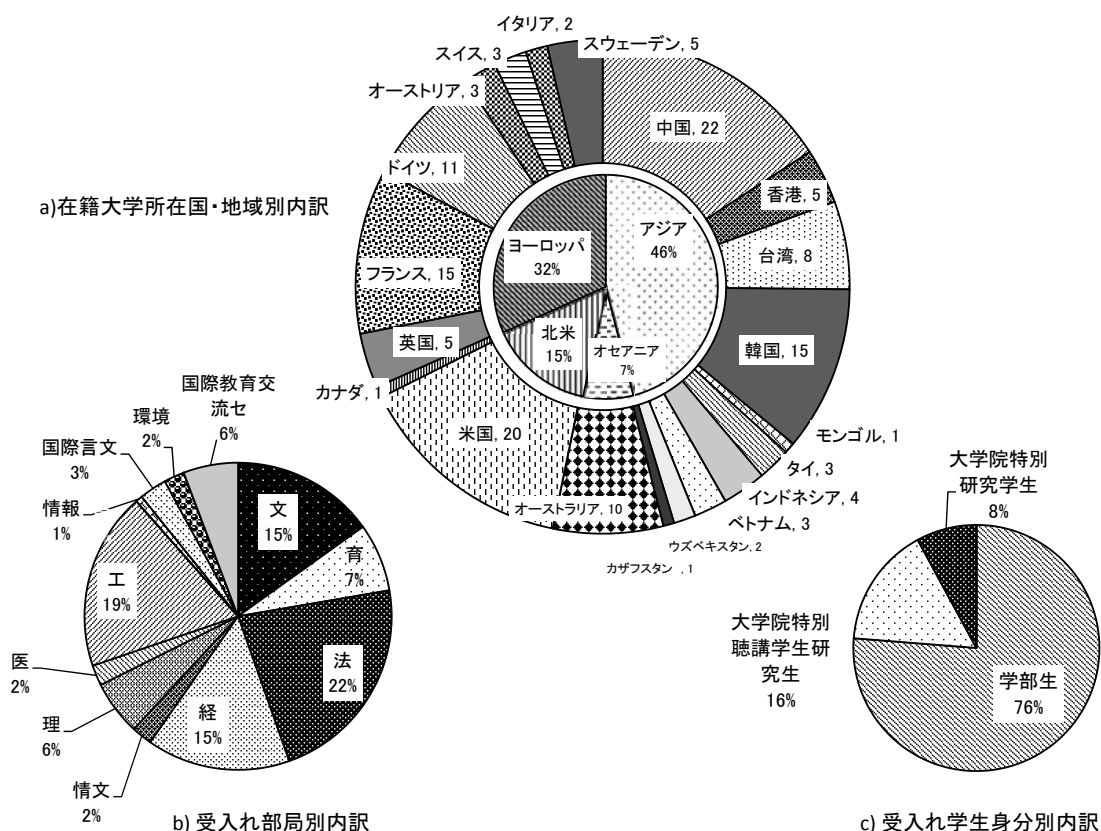


図3-1 平成26年度交換留学生の内訳 (2014年4月～2015年3月: 全139名)

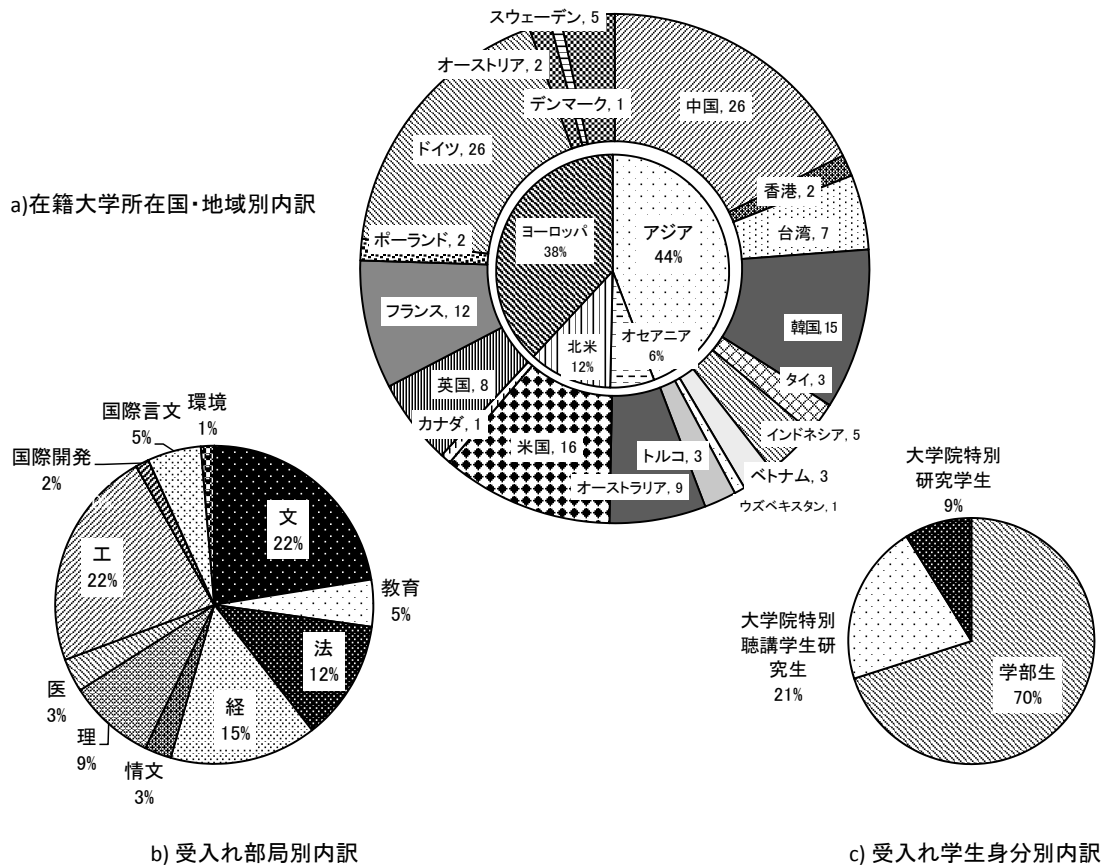


図3-2 平成27年度短期留学生の内訳（2015年4月～2016年3月：全147名）

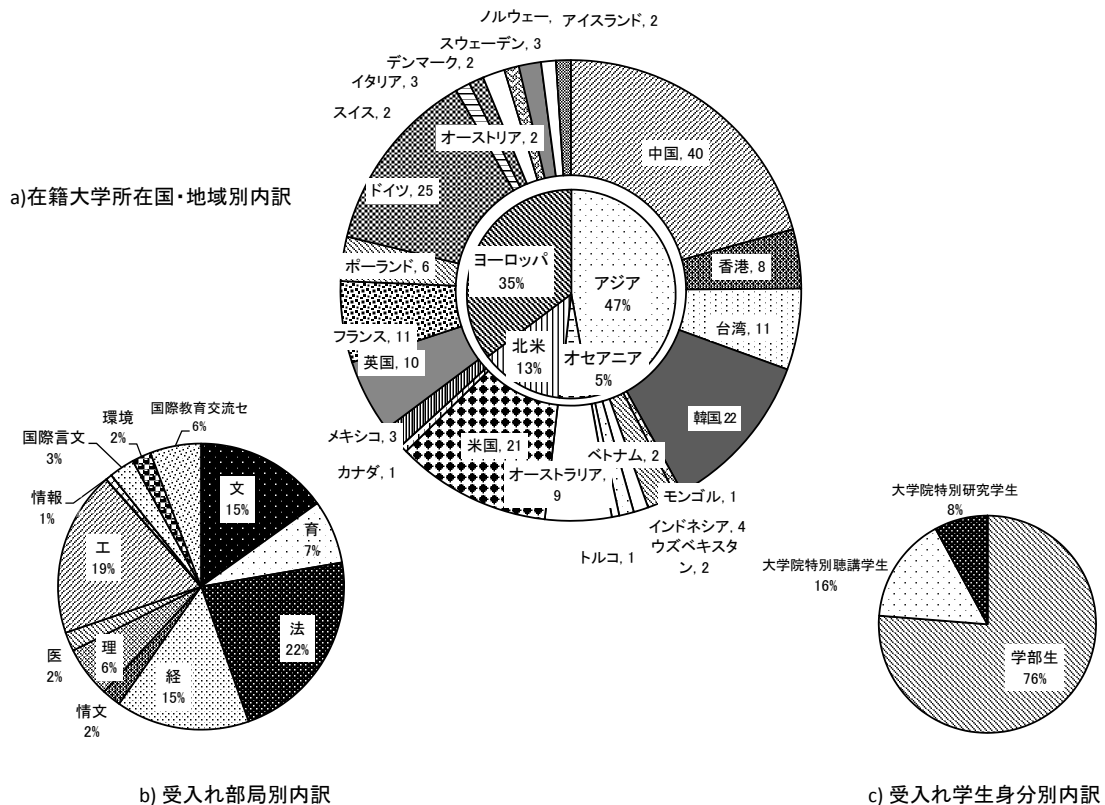


図3-3 平成28年度短期留学生の内訳（2016年4月～2017年3月：全194名）

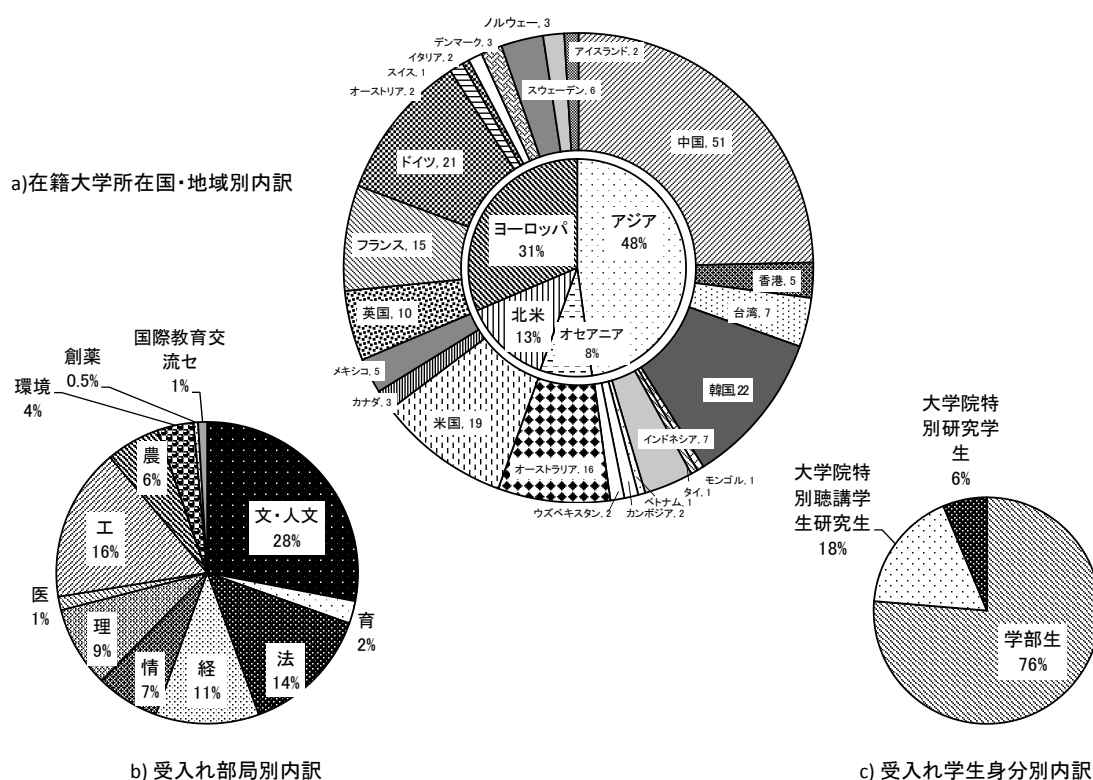


図3-4 平成29年度短期留学生の内訳 (2017年4月～2018年3月：全207名)

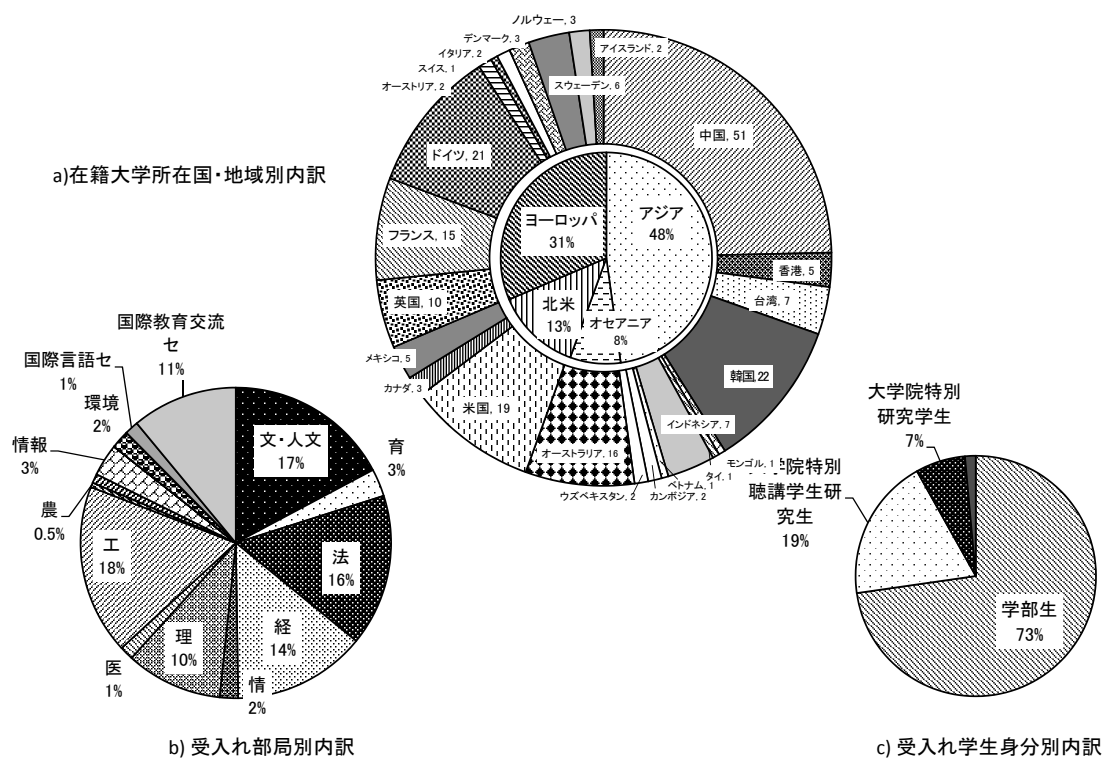


図3-5 平成30年度短期留学生の内訳 (2018年4月～2019年3月：全209名)

表2. 2014-18年度に受入れた NUPACE 学生の派遣元大学の所在国の上位国

	2014（平成26）年度	2015（平成27）年度	2016（平成28）年度	2017（平成29）年度	2018（平成30）年度
国・地域数	20	19	24	24	26
協定大学数	66	68	76	86	88
受入学生数	139	147	194	207	209
受入学生の 派遣元大学 所在国の 上位6カ国	① 中国 22名	① 中国 26名	① 中国 40名	① 中国 51名	① 中国 41名
	② 米国 20名	② ドイツ 26名	② ドイツ 25名	② 韓国 22名	② 韓国 29名
	③ 韓国 15名	③ 米国 16名	③ 韓国 22名	③ ドイツ 21名	③ ドイツ 21名
	④ フランス 15名	④ 韓国 15名	④ 米国 16名	④ 米国 19名	④ 米国 17名
	⑤ ドイツ 11名	⑤ フランス 12名	⑤ フランス 11名	⑤ オーストラリア 16名	⑤ 英国 16名
	⑥ オーストラリア 10名	⑥ オーストラリア 9名	⑥ 台湾 11名	⑥ フランス 15名	⑥ フランス 13名

表1に、過去4年半（平成27年4月～31年4月）の各受入れ時期における協定大学からの受入れ実績の詳細を示す。また図2は、NUPACE 開始から2019（平成31）年4月受入れまでに受入れた交換留学生2,034名全体の大学所在国および地域別の内訳を、図3-1～3-5には、2014（平成26）～2018（平成30）年の各年度の a) 大学所在国および地域別、b) 受入れ部局別、c) 学生身分別の割合を示す。

表2に、2014（平成26）～2018（平成30）年の各年度の派遣元大学の国・地域数、受入れた協定大学数、受入人数、そして派遣元大学の所在国の上位6カ国を示す。中国1位は変わらないが、ドイツ、韓国、米国、フランスが上位6カ国にいつも加わり、順位が上下している。近年、名古屋大学全体の在籍留学生数においては、中国留学生がほぼ約50%を占める状況は変わらないが、韓国留学生数が急減している。ところが、NUPACE 受入れでは、韓国からの受入れ数はこの5年間増加し続けている。

図2の23年間の全受入学生の地域の割合（アジア50%、オセアニア5%、北中米16%、ヨーロッパ29%）と比較すると、平成26-30年度の地域の割合は、ヨーロッパが31-38%とやや増えている一方で、北中米は北中米は12-13%とやや低くなっているが、ほぼ同様な割合が維持されており、地域的にもバランスの良い受入れを継続している。

NUPACE に受入れた学生の在籍大学の、Times 社と QS 社の2018-19年大学ランキング上位50位、100位および200位以内の大学からの割合については、過去6年の割合の推移を図4-1に、1996（平成8）年NUPACE 開始以来の同様の推移を図4-2に示す。図4-1から、この6年間で受入れ人数が2013（平成25）

年125名から2018（平成30）年209名に、2倍近くに急増しているにも関わらず、どちらのランキングにおいても、NUPACE 受入れ学生の45%が上位200位以内の大学からの学生であり、20-30%の学生が100以内の大学からの学生であることがわかる。各国の有数の大学との学術交流協定締結とプログラムの高い評価によって、優秀な学生の継続的な受入れに成功していると言える。100位以内と50位以内の大学からの受入れ割合がこの6年間でやや下降しているが、200位以内の割合を見ると減少していない。

図4-2はNUPACE 開始以来のランキング上位大学の割合を同様に示したものであるが、NUPACE 開始当初は、学生交流協定が少なく、ランキング上位大学の数も限られていたが、プログラム開始から10年の間に、有力大学との協定締結を全学へ呼びかける一方で、NUPACE 関係者が協定開拓を進めた結果、有力大学からの学生受入れを増やすことに成功している。2005年頃からその割合は横ばいになっているが、NUPACE の受入れは半分をアジアの国々から受け入れており、世界ランキングが高くなくとも、アジアの国のトップ大学とは、積極的に協定を締結し、それらの大学からも交換留学生を受入れているため、これ以上に数字が上がらないことはやむを得ないものところである。

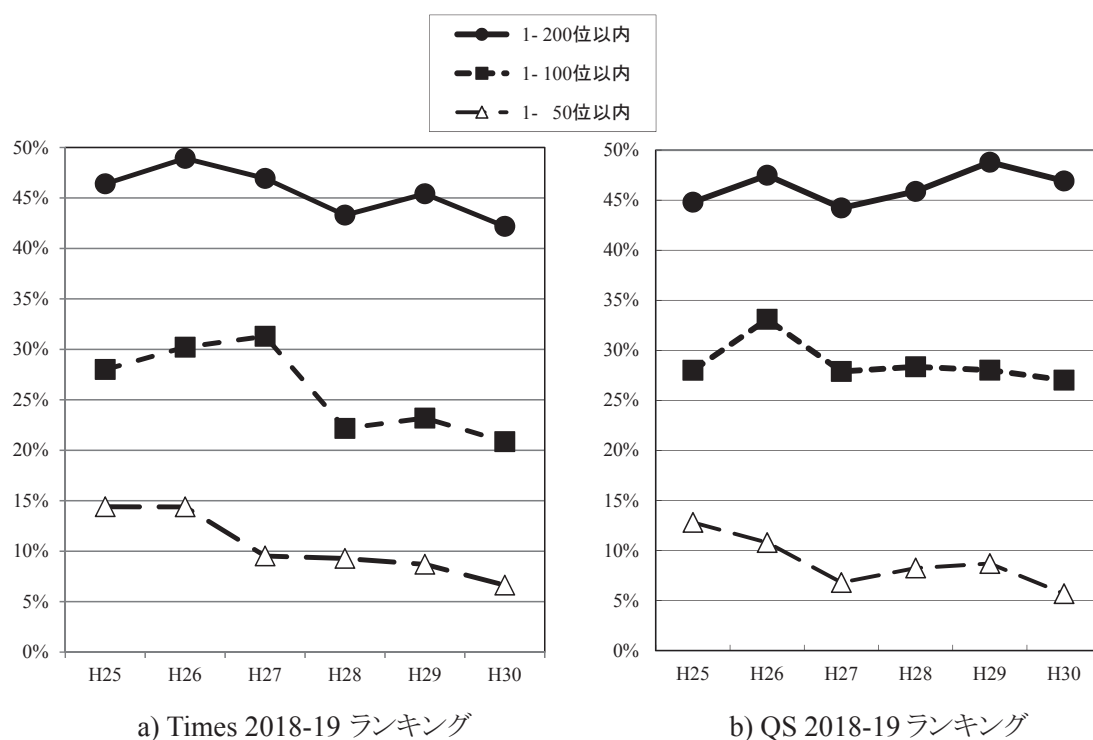


図 4-1. 大学ランキング上位大学からの受入れの割合

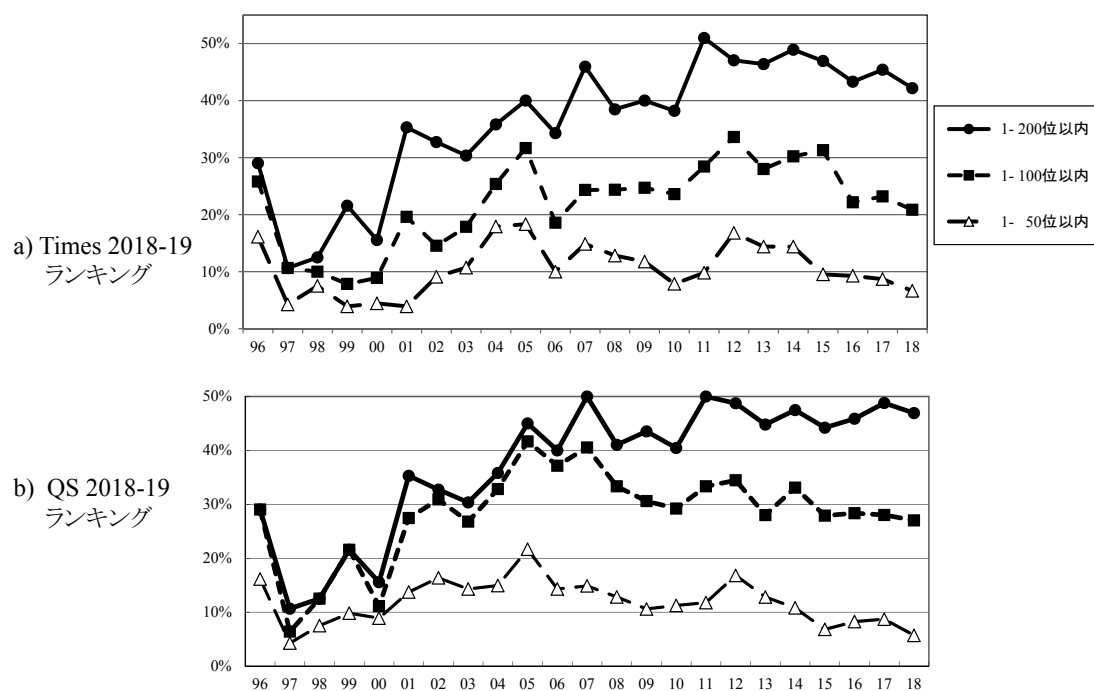


図 4-2. 大学ランキング上位大学からの受入れの割合 (1996-2018)

2. NUPACE 奨学金割当実績 (表3 参照)

NUPACE 受入れ学生に対する奨学金支援の大部分を依存している「海外留学支援制度 (前身留学生交流推進制度)」は、以前報告した2014 (平成26) 年度の大きな制度変更の後、この5年間大きな制度的変更はなかった。「同 (協定派遣)」と「同 (協定受入)」の対の形で構成され、双方向で4ヵ月以上の単位取得を原則とする交換留学を行うプログラムの場合には、受入れと派遣の両方を組み合わせた双方型交換プログラムとしての申請が推奨され、一方、2週間から3ヵ月未満の研修プログラム、一方向の派遣または受入れプログラム (1ヵ月未満～1年未満)、4ヵ月以上の研究留学プログラムに対して、「短期研修・研究型プログラム (協定受入)」および「同 (協定派遣)」という分類で申請できる形となっている。

大幅な制度変更ではないが、平成29年度より申請・運用方法に変更があり、前年度採択されたプログラムの場合には、継続申請すればほぼ採択されるタイプBの申請 (但し、採択された奨学金数が初年度申請の70%になる) と、新規申請の場合のタイプAと、申請が二つに分けられることとなった。また、1大学からのタイプAの申請は10件まで (双方向、短期研修・研究 (受入)、短期研修・研究 (派遣) を全部合わせて)、タイプBとタイプAを合わせた申請件数は35件までとされた。本学では、2014 (平成29) 年度申請の際には、学内でタイプAに全12件の応募があったため、交換留学実施委員会による学内選考にて10件に絞られた。平成30年度と平成31年度のタイプA申請は、プログラム

間の調整もあった模様で全10件の申請となり、学内選考は行わなかった。

表2の通り、NUPACEの奨学金となる申請は、平成26年度以降、双方向型として申請してきており、ほぼ計画通りの採択を受けているが、平成28年度は不採択となった。幸いなことにスーパーグローバル大学採択による重点政策枠80人月が本学に割当てられたため、この中の52人月分の割当をNUPACEが受け、4月受入れの1学期滞在学生13名のNUPACE学生に割当てることができた。さらに、不採択ながら、追加採択Aグループにあったため、7月に追加採択 (100名) の通知を受け、9月受入れ学生は奨学金支給率が高い結果となった。

平成29年度は新規申請 (タイプA) が採択されたため、100名分の割当を受けた。平成30年度は、継続プログラム (タイプB) として申請したため、70の奨学金割当を期待していたが、何らかの理由により、65の割当数となっている。同年度、NUPACEプログラムに所属しながら日本語受講を中心としたプログラム申請を行ったが不採択となり、追加採択もBグループとなり、最終的に追加採択の通知はなかった。

平成31年度は新規申請 (タイプA) が採択され、100名分の割当を受けた。

「海外留学支援制度」以外の奨学金は、ほとんど無くなっており、「日本-カナダ大学コンソーシアム」による「日加戦略的留学生交流促進プログラム」は平成27年度不採択以降、申請も行われておらず、「交流基金」 (台湾対象) は、平成28年度以降「海外留学支援制度」に組み込まれる形となった。

表3. 交換留学受入プログラム関係奨学金の割当実績

奨学金種別			H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	NUPACE 受入
留学 交流 支援 制度 ↓ 海外 留学 支援 制度 (短期 受入)	大学推薦枠		24	9	9	11	8								対象
	ブ ロ グ ラ ム 枠	短期留学プログラム(英 語枠) (NUPACE-E)	12	15	15	15	15	15	双方向 協定型 (受入) 80	双方向 協定型 (受入) 100	双方向 協定型 (受入分) (新規A) 当初不採択 →追加採択 100	双方向 協定型 (受入分) (新規A) 100	双方向 協定型 (受入分) (新規A) 65	双方向 協定型 (受入分) (新規A) 100	対象
		理系・環境系													対象
		短期留学プログラム(日本語枠) (NUPACE-J)		-	-	-	15	15							対象
		短期留学プログラム(大学院先端研究枠)		-	-	3	8	8							対象
		国際環境人材育成プログラム(短期) *1		7	4	4	5								対象外
		グローバル30枠(H25まで) TGU枠(H28以降)		10	10	10	10	25							
	日加戦略的留学生交流促進プログラム					4	1	1					対象		
	交流協会（台湾）		2	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	対象
	21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS) (韓国) *2	一般枠	2	1	1	1									
部品素材枠			4	4	3										対象
NUPACE対象奨学金 合計 (国際環境人材Pr (*1)を除く)			40	41	40	48	66	75	82	101	113	100	70	100	

*1 環境研究科国際環境人材育成プログラム独自の運用

*2 JENESYS はH24年度以降廃止

*3 TGU枠: スーパーグローバル大学創成事業・重点政策枠

3. 国際交流関係の活動

3.1 学術交流協定

本学の活発な国際交流を反映して、平成26年度以降も全学間あるいは部局間の学術交流協定の締結が進められ、平成29年度末時点で435大学・機関との学術交流協定（全学間152、部局間283）と222大学との授業料相互不徴収協定を含む学生交流協定（全学間123、部局間

99）が締結されている。

図5に、NUPACE が開始された平成7年度以来の学術交流協定の締結数、授業料相互不徴収を含む学生交流協定の数、NUPACE で受け入れた協定大学数の累積を示す。授業料相互不徴収協定を含む学生交流協定数の増加とともに、NUPACE へ受入れた協定大学の累積数も上昇し、協定を締結した大学の約3/4から学生を受け入れた実績をもつ。

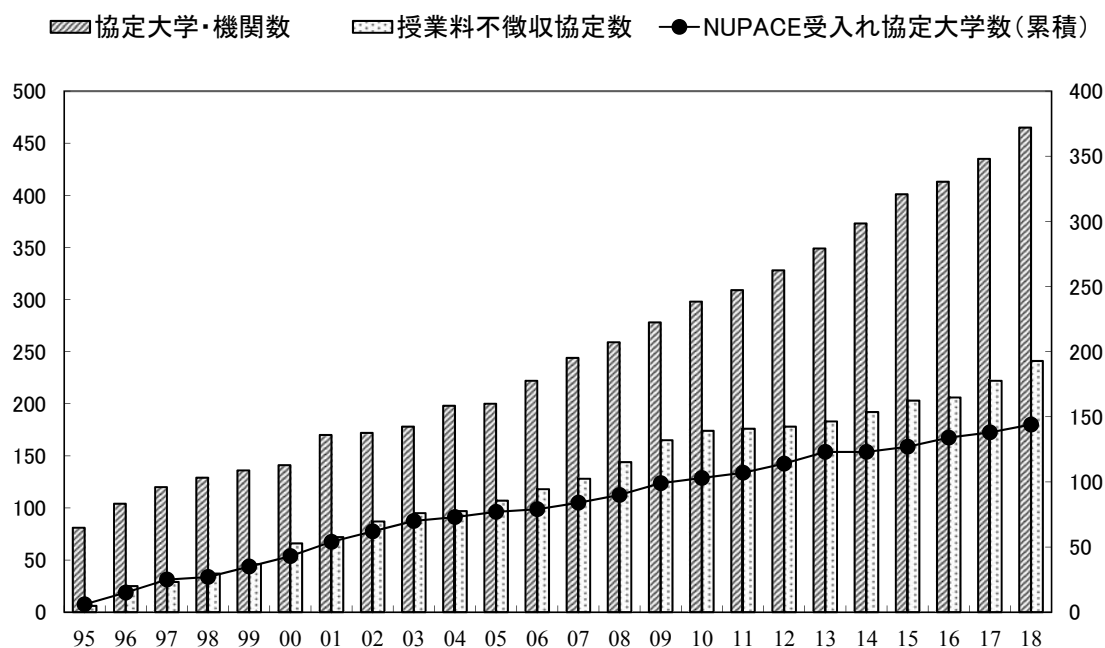


図5. 名古屋大学の学術交流協定・授業料不徴収協定の締結数の推移とNUPACEで受入れた協定大学数（累積）

表4. 名古屋大学自動車工学サマープログラムへの海外学生参加者
（*：名古屋大学との全学間学術交流協定締結大学、※：工学部・工学研究科の部局間協定締結大学、△：他部局の部局間協定締結大学）

地域	大学 所在国	大学名	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
北 米	米国	ミシガン大学 ※	6	13	12	7	5	9	12	6	9	4	4
		ノースカロライナ州立大学 *	4		4				1				
		カリフォルニア大学ロサンゼルス校 *	1	9	1	1	1				1		
		カリフォルニア大学デービス校 *					5			2			
		ケンタッキー大学 *	1	1	2		2	2		1	1		1
		南イリノイ大学*		2	2	2	2	1			1		2
		イリノイ大学アーバナシャンペーン校 *			5	1		2	4	3	2	1	1
		アリゾナ州立大学					1					1	
		バデュー大学						1	1				
		カリフォルニア・ポリテクニク州立大学											
		サン・ルイス・オビスポ校				1							
		メリーランド大学 △							3	1		1	
		ラトガーズ大学									1	2	
		ペンシルバニア州立大学									1		
		シンシナティ大学 *										1	
		ワシントン大学 ※									5	6	4
		クレムソン大学											2

地域	大学 所在国	大学名	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
北	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学					1		2				
		アルバータ大学 *								3	3	3	
		オタワ大学 *								1			
		トロント大学 *									2	2	7
		カルガリー大学 *										1	1
米	北米一小計		12	25	26	11	17	16	23	17	26	22	22
	北米一割合		100%	83%	87%	61%	61%	57%	66%	52%	68%	59%	61%
ヨーロッパ	フランス	ストラスブルグ大学 *		2									
	英国	ウォーリック大学 *		3									
		ニューキャッスル大学					1						
		シェフィールド大学 *					1				1		
		サウサンプトン大学					1						1
		ブリストル大学 *					1			1	2	5	1
	イタリア	ミラノ工科大学						1					
		サビエンツァ・ローマ大学 *							2				1
		ボローニャ大学 *							2			2	
	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学 *							3			1	1
	ドイツ	ミュンヘン工科大学 *							2				
		カール・フォン・オシエツキー大学							1				
		アーヘン工科大学 *								2			
アジア	香港	香港科技大学 *			3		2	2	1	4	3	2	
		香港大学 *								4	1	3	4
	中国	同済大学 *			1		1				1		
		吉林大学 *										1	
		東北大学 *										1	
	台湾	国立台湾大学 *				3		4		2	1		
		台湾清華大学 *				3		3			1		
	モンゴル	モンゴル健康科学大学 *							1				
	インドネシア	バンドン工科大学 *						2					
	タイ	カセサート大学 *								1			
	シンガポール	シンガポール国立大学 *								2	1		
	トルコ	イスタンブール工科大学 ※				1							
		ビルケント大学 *											1
	サウジアラビア	ノーザン・ボーダー大学				4							
		アルファイサル大学											1
		キング・サウジ大学											1
		キング・アブデュラジズ大学											2
アフリカ	ケニア	ナイロビ大学 *											1
北米以外一小計			0	5	4	7	11	12	12	16	11	15	14
北米以外一割合			0%	13%	13%	39%	39%	43%	34%	48%	29%	41%	39%
計			12	30	30	18	28	28	35	33	38	37	36

3.2 英語による工学研究科「自動車工学」サマープログラムの実施

プログラム立ち上げに筆者も加わり、現在もプログラム実施委員会委員に加わっている本プログラムは、2018（平成30）年も6-7月に実施され、最終的な海外大学参加者は36名となった。2008（平成20）年から開始されて11年目を数え、表4に2008-18年のプログラム参加者の大学別内訳を示す。年によって、その参加者の構成は多様であるが、50-60%はカナダを含む北米地域からの参加学生である。本プログラム設立のきっかけとなったミシガン大学からは継続的に受入れているが、他のサマープログラムやインターンシッププログ

ラムと競合するために、応募後のキャンセルが多い模様である。2017年はワシントン大学が、2018年はトロント大学から多数の参加者数となった。プログラム責任者の石田幸男特任教授、工学研究科国際化推進教員やその他の工学研究科教員の大学訪問が大きく貢献している模様である。

2018年は、サウジアラビアから3大学4名の学生の参加が加わった。これは、サウジアラビア政府と同国のムハンマド皇太子が設立した Misk 財団からの強い要請があり、実現された（同財団は、同国の若者たちのためにイノベーションと創造性を生み出す非営利組織として2011年に設立され、同国の優秀な学生を工学、

経営学、情報技術の分野で海外の秀でた大学に派遣するインターシップ留学を行ってきており、ハーバード大学、ユネスコなどの組織とパートナーシップを結んでおり、日本では東京大学、東海大学でのインターシップも推進している)。サウジアラビア国内で100名の応募があった中から選考され、優秀な学生が派遣されてきた模様である。今後も、サウジアラビアからの受入れが継続される予定である。

さらに、ケニア・ナイロビ大学から1名の学生の参加があった。工学研究科国際交流室レイト講師がナイロビ大学との学術交流協定交渉を推進し、2014年に締結して以降、同大学機械工学教授がNUSIPの参観に来るなどの取り組みの結果、実現に至った。

4. 最後に

1996（平成8）年NUPACEの発足以来、教員3名がプログラム・コーディネータとして担当する体制の中で、受入れ規模は当初の40名規模から200名を越える規模となった。とくに、2015（平成27）～2017（平成29）年度の3年間、NUPACE受入数は、147名から207名に急増している。この受入れ増加は、本学が申請し、採択されたスーパー・グローバル大学創成支援事業にも掲げられていることであるが、NUPACEの体制強化が全く進んでいない状況の中で進められている。

2015（平成27）年3月に、前任の特任講師が他大学へ転出し、2015（平成27）年10月から特任講師が任用され、ようやく3名体制に戻った。この後、この体制を維持しているが、特任講師の任期が毎年更新されるものの、大変不安定な雇用条件を強いられている。また、事務補佐員2名の献身的な事務担当の活躍によって多忙な職場環境をしのいでいるところである。

さらに、筆者は2020年3月で定年を迎える。本来であれば、NUPACE受入学生数の規模を維持あるいは拡大していくために、筆者に代わる教員の補充が必要不可欠と思われるが、2013年10月の組織再編とともに、筆者の所属は教育交流部門となり、他の2教員は国際プログラム部門（留学生受入部門）の所属として二つの部門に分かれた状態になり、筆者は部局の国際化推進教員20名弱を束ねる部門長としての職務と2018（平成30）年度まで留学生教育交流実施委員長としての責務を負う形となった。名古屋大学留学生支援事業の募集・選考、留学生のアルバイト保証人対策、修学困難学生の対策と発生予防策、後期渡日時期の繰上げ、学生賠償保険への全学的加入要請、留学生宿舍対応、民間宿舍の連帯保証の民間移行、研究生制度・大学院生入試制度の改善提案とオンライン応募支援システムの開発、大学推薦奨学金の採択率均等ワーキンググループでの順位表作成・審議、大学推薦民間奨学団体への学内選考制度と面接対策指導の提案・実施、さくらサイエンスプラン事業の申請・実施、優秀な留学生リクルートのための名大巡講、中国大学協定大学との様々な交流事業、そして部局の留学生に関わる緊急課題対応も少なくない等、様々な課題に対応し、国際交流事業を進めてきている。従って、教育交流部門から筆者が完全に抜け、専任教員准教授のみで仕切っていくことは容易でなく、体制の再構築が不可欠と思われる。

以上の理由から、筆者の後任の人事が進まず、後任を前提とした業務の引き継ぎをほとんど進められない現状である。名古屋大学の今後の国際戦略を踏まえ、国際交流、留学生交流をさらに推進するためにも、全学的に国際教育交流センターの来年度以降の体制を勘案し、教育交流部門と国際教育プログラム部門そしてNUPACEの体制を考えながら、後任人事、体制を検討していただきたいところである。